

また大伴坂上郎女の歌一首

五二九番

佐保川の岸のつかさの柴な刈りそね ありつ
つも 春し来らば 立ち隠るがね

天皇、海上女王に賜ふ御歌一首

五三〇番

赤駒の越ゆる馬柵の標結ひし 妹が心は
疑ひもなし

海上王の和へ奉る歌一首

五三一番

梓弓 爪引く夜音の遠音にも 君が御幸を
聞かくし良しも